

荒川区区政改革懇談会

第5回福祉・健康・子育て分科会 議事要旨

【日時】

10月18日(水) 10:00~12:00

【場所】

荒川区役所 3F 議員待遇者控室

【次第】

ステップ1: 本日のプログラムの説明

ステップ3: 次回の討議に向けた話し
合い

ステップ2: 「幸せ」についてのフリー
ディスカッション

ステップ4: その他

ステップ1 今日のプログラムの説明

コンサルタントより第1回から前回までに話し合われたことについて説明があった。

この分科会での大きなテーマである「福祉・健康・子育て」のうち、「健康について」がまだ話し合われていないので、今回「健康について」を中心に話し合いたい旨説明があった。

ステップ2 「幸せ」についてのフリーディスカッション

コンサルタントより、健康についての参考に次の説明がなされた。

荒川区の平均寿命は平成12年国勢調査では、男性76.0歳、女性83.2歳、東京23区でそれぞれ22番目である。また、早世(40~64歳で死亡)は全国を100とすると男性147.0、女性131.4である。荒川区は全国に比べて悪いという数値が出ている。次に、死因については、平成16年のデータで死亡全体を100とすると、がん32.2%、心疾患16.6%、脳血管疾患11.3%、肺炎7.9%、老衰、自殺、不慮の事故と続く。健診の受診率は、23区平均より高い水準のまま横ばいで推移している。

・若い人が健診を受けていない。

・区健康診査の対象者はどのようになっているのか。

(回答) 会社員は会社で健康診断を受ける。

40歳以上の自営業等で国民健康保険に加入している人の健康診断は区で行っている。

・会社員の配偶者等、扶養家族はどうなっているのか。

(回答) 基本健康診査は老人保健法に基づいて実施されている。対象は40歳以上である。国保だけではなく、社保の配偶者等も受診できる。がん検診を除けば40歳以下は区の健診は受診できないのが現状である。

・会社員の配偶者には、基本健診等の葉書が区からこないの、受診しない人が多い。

・会社員の配偶者でも申し込めば区の健診が受けられるという情報を知らない人も多い。

- ・健康診査についての情報が若い人にいきわたっていない。
- ・区と国の制度でもれてしまう人がいる。
- ・健診を受けるという意識のない人が多い。
- ・健診がもれてしまう年齢が、家族等に時間がとられ自分のことに時間をさけない頃なので制度の改革を望む。
- ・胃の手術をした人は、がん検診を受診できない。

(回答) 胃が変形し、胃の中にバリウムが溜まらないため、バリウムが胃壁に付着しない。レントゲンに手術の痕が映るため精密検査になってしまうからである(区が行うがん検診は一次検診であるため)

- ・小児科医が少ない。
- ・荒川区はデータの的に長生きできない区になっているので、長生きできる区にしようというのが目的である。
- ・健康で長生きできなければ仕方ない。
- ・平均寿命の低いところは、食生活で塩分が多いとか、健康への気遣いをしない地域のよう思う。
- ・健康に対する意識の差が影響していると考えられる。健康に対する意識を持つということとはそういう情報が提供されていると高まると思う。
- ・今の子どもがあぶないと思う。小さい時から添加物や環境汚染の中で育ってきている。どうしたらいい環境を残せるか。給食の主食をご飯にしたらバラエティーにとんだ副食になり、子どもたちが元気になったという地域がある。ファーストフードを多く食べている子どもたちに給食だけでもしっかりしたものを食べさせたらどうかと思う。
- ・ファーストフードの味を覚えさせるのは親である。親への食育教育が大切である。
- ・近いところで作った物を食べれば防腐剤とかを使わないから少しは安全。
- ・まずは、みんなの心がかわらないといけない。変形したトマトはいや、曲がったきゅうりは買わないと言っていてはだめ。そういうところから意識を啓発していく必要がある。
- ・農家では自分の家で食べる野菜には農薬は使わない。
- ・農家に農薬を使わないで欲しいと言っても難しいから、荒川区が農家と直接提携して、無農薬の野菜を作ってもらいすべて買い上げるという方法をとらないとできないと思う。
- ・給食の食べ残しで肥料を作り、それを提携した農家で使ってもらい、できた農作物を買って食べるという循環システムができるといいと思う。
- ・水をきれいにするために、洗剤を使わないということを広めたい。洗剤のかわりに重曹を使えば手も荒れないし、水も汚れないということをもっと多くの人に知ってもらって海や川の水をきれいにしたい。
- ・実際に重曹を使っている人の生活を紹介するといいかもしれない。
- ・無農薬の野菜を食べ、添加物や科学物質が体に入らないようにしていてもそれだけでは健康で長生きはできない。人間は人と人とが十分にふれあうことで、元気になる。精神的な部分が大きい。

- ・荒川区で行っている川の手まつりで、新鮮な野菜を売っているが、人気がありすぐに売り切れてしまう。多くの人々が、新鮮な野菜等に興味があるのだと思う。
- ・区で認証している「健康応援店」というものがある。
- ・「健康応援店」は外食屋が多い。
- ・荒川区の区民は塩味の濃いものを好む傾向にあると思う。
- ・早世の原因は何か。
- ・防腐剤の入った物は、いつまでも腐らなくてこわい気がする。
- ・添加物には、発がん性の高いものとそうでないものがある。全部が危険なわけではないが、安全なものや危険なものの情報が提供されない。
- ・国が「健康日本21」という事業を行い、国民の健康維持をしようとしているが、うまくいっていない。成人の肥満が増えている。
- ・スポーツをしない。動く量より食べる量が多い。
- ・運動をすることが、大切だが、おとなはなかなかできない。
- ・食生活も欧米と同じではだめで、本来の日本食にもどせば、違ってくると思う。
- ・民族的には、そうそう太る民族ではないのだから、食事を変えれば、肥満も減ると思う。
- ・歩くことがいいと言われるが、これもなかなかできない。
- ・個々のライフスタイルの問題になってしまう。
- ・歩くのも暗くなると、危険である。
- ・区民プールの使用時間を延長してほしい。そうすれば、水泳ができる区民が増える。
- ・まず、健康に対する意識を変えることが、大切で、施設の充実はその次の問題だと思う。
- ・メニュー等でどのくらいの食事をとればいいのか、どれくらいの運動をすればいいのか年齢別に具体的に示してもらえれば、意識すると思う。
- ・保健所で満点メニューを貼って示している。
- ・保健所へ行かないと見られない情報は意味がない。
- ・区報には出ているが、隅々まで読まないといけない。情報の発信方法にも問題がある。
- ・情報に目を向けさせる努力が必要。
- ・荒川区のひとり暮らし高齢者世帯はどのくらいあるのか。

(回答)ひとり暮らしであるという申請をしてもらう。平成17年度で、2,195世帯である。

- ・ひとり暮らしでも、外出している人はいいが、家に閉じこもっている人が問題である。
- ・家から出ない人をどうしたら外に連れ出せるか。
- ・銭湯で落語をし、高齢者を集めた。
- ・ひとり暮らしを申請しない人もいる。申請制度なので、申請しないとわからない。
- ・地域のコミュニティも不足している。

ステップ3 次回の討議に向けた話し合い

コンサルタントから、次回以降の話し合いについてテーマをしばって話しあい、区への

提言としてまとめていきたいという提案があった。

- ・「福祉・健康・子育て」それぞれ3つについて、提言をいくつかずつあげる。
- ・あるべき姿をもっと出してみる。
- ・3つのテーマは一応話し合ったので、今までの意見を福祉・健康・子育ての分野別に分けてまとめたものを示してほしい。
- ・「福祉・健康・子育て」の分野からかけ離れた意見はどのように扱えばいいのか。
- ・最終的には、提言書としてまとめるようだが、「福祉・健康・子育て」の分野から少し離れた分野への意見であってもいいと思う。
- ・話し合いの起点が「福祉・健康・子育て」であれば、具体的な提言内容が環境に関連することになったとしてもそれはそれでいいと思う。
- ・ここでやりとりができない問題であれば、次回担当部署に説明をお願いするか、聞いてきていただくとかできればそれでいいと思う。

次回以降も特定のテーマにしぼらずに「福祉・健康・子育て」について話し合っていく。こうあったらいいと思う姿を出していただきたい。

ステップ4 その他

次回日程について

今回は、11月15日（水）10：00～

以上